



連携強化！ 四日市コンビナート消防連絡会

四日市市消防本部 予防保安課 安全指導係
清水 康明

●はじめに

四日市市は三重県の北部に位置し、西は鈴鹿山系、東は伊勢湾に面した温暖な地域で、古くから東海道の宿場町として栄えてきました。昭和30年代以降、石油化学工場等の進出は、大気汚染等の公害をもたらしましたが、今では環境浄化に努力し、自然との調和を目指したまちづくりにまい進しています。

本市は、人口31万人都市であり、石油コンビナート等特別防災区域を指定する政令において「四日市臨海地区」と定められています。南部に第1コンビナート、中央部に第2コンビナート、北部に第3コンビナートが位置し、高速道路や主要交通機関もおおむね南北に走り、コンビナート事業所が産業の中核を担っています。



(位置図 四日市市環境部 四日市公害と環境未来館 発行「四日市公害のあらまし」引用)

●背景

四日市市消防本部では、平成13年4月、地方分権及び規制緩和の促進による社会情勢の変化を危険物行政にも反映するため、四日市臨海地区コンビナート事業所との定例的な意見交換の場を設け、事業所の自主保安体制の強化と危険物行政の効果的・効率的な運用を目的とした【予防関係連絡会】を設置し、その後、平成19年1月、予防関係連絡会を発展的に再編し、【四日市コンビナート消防連絡会（以下「消防連絡会」という。）】を設置しています。

●内容

現在、消防連絡会の組織としては、会長職を消防本部予防保安課長が、副会長職をコンビナート事業所の課長職が輪番で務めています。また、石油コンビナート等災害防止法第22条に規定される協議会である「四日市コンビナート地域防災協議会」に加盟している33社の中から代表して、コンビナート事業所9社を第1号委員、消防本部予防保安課員を第2号委員として定めています。消防連絡会は、年間8回ほど開催し、総勢30名程度が参加しています。

所掌事務としては、コンビナート事業所における自主保安対策及び消防関係法令の運用などについて協議・情報共有することとなっています。具体的には、6月の危険物安全管理強調月間（当消防本部では危険物安全週間を月間として取り組んでいる）を中心に実施する「コンビナート防災診断」や「危険物事故防止等アクションプランに基づくコンビナート事業所学習会、自衛防災組織等訓練検証、集合セミナー」などの内容について協議・報告しており、年間を通しては「事故事例の水平展開」、「危険物規制（四日市市危険物規制審査基準）及び石油コンビナート等災害防止法の運用」、「先進技術に関する事項」など、多岐にわたり協議し、情報共有を図っています。

●成果

これまで消防連絡会では、コンビナート事業所の意見を取り入れながら四日市市危険物規制審査基準等の見直しを実施し、現在の社会情勢に見合う規制となるよう検討を継続しています。また、コンビナート事業所で発生した異常現象について事例を紹介し、全ての事業所において同種事案を発生させないための事故防止対策を提言し、水平展開を行っています。

近年では、ドローンや非防爆携帯型電子機器のガイドラインに関する意見交換を行い、実際に消防本部とコンビナート事業所が協力して取り組んだドローン飛行の検証動画や静止画を公表し、その実用性について他の事業所へ水平展開を行うことが可能となっています。

コンビナート事業所からは、具体的な実例や他の事業所の実状を把握することができるだけでなく、コンビナート事業所同士の情報交換の場となることから、大変有意義であるとの意見が多く寄せられています。

今やあらゆる先進技術が活用される時代であり、コンビナート事業所が取り入れるツールについて意見交換を行い、現行規制との問題点について協議する必要があると感じています。

●コロナ禍におけるコンビナート事業所との連携

新型コロナウイルス感染症患者が世界各国で発生し、感染症対策として日本でもあらゆる行事が中止・延期となりました。その影響により消防連絡会も開催ができなくなりましたが、消防連絡会に参加しているコンビナート事業所の一つが感染症対策として社内Web会議をいち早く実施していたため、そのノウハウを活用することができ、消防連絡会をWeb会議として開催することが可能となりました。また、消防連絡会だけでなく、消防本部への窓口相談に関してもコンビナート事業所の担当者が直接足を運ぶことなく、Web会議での対応が可能となり、さらには災害発生時においても、Web会議を実施することでリアルタイムな情報をコンビナート事業所から消防本部へ伝達することが可能となると考えています。



消防連絡会（Web会議）の様子

●終わりに

消防本部では消防連絡会を通して、コンビナート事業所と常に連携を取れる体制を整えています。そのため、コロナ禍にも即対応することができたと感じています。また、コンビナート事業所と消防本部が連携できるだけでなく、コンビナート事業所同士の連携もできるようになり、さらなる自主保安体制の強化に繋がっていると感じています。

令和3年7月時点で消防連絡会は130回目の開催となっています。過去から先輩方が築き上げてこられた経緯と現代の情勢を融合させ、今後もコンビナート事業所と消防本部との間でより一層の連携強化を図り、事故防止に繋がるよう四日市コンビナート消防連絡会を発展させていきたいと考えています。